

国際人間科学部発達コミュニティ学科 2020年度新入生ガイダンス

学科長 吉田 圭吾

1.はじめに

発達コミュニティ学科の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心より歓迎します。

ここでは、発達コミュニティ学科での学習に必要な最小限の情報を示します。よく読んで理解してください。

2.発達コミュニティ学科のミッション

発達コミュニティ学科の特色を一言で述べると、人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に取り組む人材を養成するということになります。

本学科は、人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティ（多様な人々が協働する社会）を実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定します。

3.卒業後の進路

卒業後の進路として、自治体や企業における組織・人事戦略コンサルタント、家庭裁判所調査官、地域コミュニティ創生支援事業・人材育成事業の指導者、行政や自治体の専門職、健康関連企業での専門職、国際連合機関（ユネスコ、世界保健機関等）、大学院進学等が予想されます。

4.学びの特色

①広い基礎知識を学び、学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

②教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

③国内外の海外研修、フィールドワークを通じて実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。

5.プログラム紹介

①社会エンパワメントプログラム

目標：社会の様々な局面で生じる課題に人々がコミットしてゆくための方法、対人支援・コミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、あらゆる人の多様なエンパワメントを通してグローバルな社会課題が解決される専門的方法論を身につけます。

学問領域：ESD論、社会教育・生涯学習論、障害者共生支援論、ジェンダー論、福祉教育・ボランティア学習論、臨床哲学、環境リスク学等

稲原 美苗	准教授	ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
清野 未恵子	准教授	自然共生社会、野生動物管理、ESD
津田 英二	教授	生涯学習論、障害共生支援論
松岡 広路	教授	生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
村山 留美子	准教授	環境保健学、環境リスク学
大田 美佐子	准教授	音楽文化史、音楽美学
岡崎 香奈	准教授	音楽療法、即興演奏
平芳 裕子	准教授	表象文化論、ファッション文化論
吉田 圭吾	教授	臨床心理学、スクールカウンセリング

②心の探究プログラム

目標：人々の心の発達の一相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身につけます。

学問領域：臨床心理学、芸術療法、スクールカウンセリング、臨床心理検査法、発達臨床心理学、生涯発達心理学、睡眠心理学、教育心理学、人格心理学、健康心理学等

教員名	職名	専門分野
相澤 直樹	准教授	臨床心理学、臨床心理検査(投影法)
安達 友紀	助教	臨床心理学、慢性痛
伊藤 俊樹	准教授	臨床心理学、芸術療法
加藤 佳子	教授	健康心理学、健康教育
河崎 佳子	教授	臨床心理学、発達臨床心理学
齊藤 誠一	准教授	生涯発達心理学、思春期心理学、災害心理学
坂本 美紀	教授	教育心理学
谷 冬彦	准教授	人格心理学
鳥居 深雪	教授	発達障害臨床学
林 創	准教授	発達心理学、教育心理学
古谷 真樹	准教授	睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
山根 隆宏	准教授	発達臨床心理学、発達障害児家族支援
吉田 圭吾	教授	臨床心理学、スクールカウンセリング

③アクティブライフプログラム

目標：人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、人の心身や運動行動を理解・分析する基礎的能力、心身の健康やエイジング、スポーツ活動などにかかわる実践的な専門的能力を身につけます。

学問領域：生活習慣と心身の健康、社会心理学、社会老年学、健康行動加齢論、加齢の認知心理学、加齢の身体運動科学、応用生理学、運動生理学、運動生化学、スポーツ技術論、運動心理学、スポーツ社会学、体育・スポーツ史等

教員名	職名	専門分野
秋元 忍	准教授	体育・スポーツ史

教員名	職名	専門分野
石原 暢	助教	応用身体運動科学
岡田 修一	教授	加齢の身体運動科学
片桐 恵子	教授	社会心理学、社会老年学
河辺 章子	教授	運動生理学(身体運動制御)
木村 哲也	准教授	身体システム学、応用生理学、バイオメカニクス
近藤 徳彦	教授	応用生理学、運動生理学、環境生理学
佐藤 幸治	准教授	スポーツ生理・生化学
高田 義弘	准教授	運動生理学(身体コンディショニング)
高見 和至	教授	運動心理学
長ヶ原 誠	教授	スポーツ振興論、国際スポーツ文化論、加齢発達論
中村 晴信	教授	公衆衛生学、生理人類学
原田 和弘	准教授	老年行動学、健康スポーツ論
前田 正登	教授	スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学
増本 康平	准教授	高齢者心理学、実験心理学、認知心理学
古谷 真樹	准教授	睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
村山 留美子	准教授	環境保健学、環境リスク学

④ミュージックコミュニケーションプログラム

目標：人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

学問領域：音楽文化史、音楽療法、民族音楽学、作曲・編曲、声楽、器楽

教員名	職名	専門分野
大田 美佐子	准教授	音楽文化史、音楽美学
岡崎 香奈	准教授	音楽療法、即興演奏
谷 正人	准教授	民族音楽学、イラン伝統音楽
津田 英二	教授	生涯学習論、障害共生支援論
田畑 暁生	教授	社会情報学、映像論
野中 哲士	教授	認知科学、生態心理学

⑤アートコミュニケーションプログラム

目標：人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化芸術の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、美術の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

学問領域：舞踊学、美術・彫刻、絵画表現、近代建築史、感性科学、ファッション文化論、社会情報学、認知科学

教員名	職名	専門分野
梅宮 弘光	教授	近代建築史
岸本 吉弘	教授	絵画の創作と研究
関 典子	准教授	舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究
田畑 暁生	教授	社会情報学、映像論
野中 哲士	教授	認知科学、生態心理学
平芳 裕子	准教授	表象文化論、ファッション文化論

6.プログラム分けについて

1年次はどのプログラムにも所属せず、全学共通授業科目や、各プログラムの科目を広く履修します。

1年次の2月8日(月)10時(予定)にプログラム最終希望調査を行います。
5月1日のガイダンスの日に第1回プログラム分け希望調査を行い、10月と

12月に第2回と第3回を行い、全体の動向を見ながら、最終希望調査を行い、その結果でプログラム分けを行います。出来るだけ希望プログラムに入れるように、各プログラムの最大受け入れ人数は多めに設定されています。

社会エンパワメントプログラム 15名
 心の探究プログラム 32名
 アクティブライフプログラム 38名（うちAO入試入学者12名）
 ミュージックコミュニケーション・アートコミュニケーションプログラム
 37名（うちAO入試入学者24名）

AO入試で入学した新生は、当該プログラムに自動的に配属されます。選考基準は、以下の通りです。ただし、変更する可能性もあるので、情報にご注意ください。

社会エンパワメントプログラム
 「社会教育計画論1・2」成績及び面接

心の探究プログラム
 「心理学の基礎と歩み1・2」成績+（「発達心理学1・2」または「心の発達と教育1・2」の成績の良い方）+筆記試験

アクティブライフプログラム
 GPAによる選考（1年終了時）

アート・ミュージックプログラム
 「人とアート論1・2」成績+希望調査書の評価

7.生活相談教員とGSP相談教員

学籍番号 下3桁	生活相談教員 メールアドレス
801-821	坂本美紀 msakamo@pearl.kobe-u.ac.jp
822-842	木村哲也 tkimura@people.kobe-u.ac.jp
843-863	岸本吉弘 yoshiki@kobe-u.ac.jp
864-884	相澤直樹 aizawa@kobe-u.ac.jp
885-905	原田和弘 harada@harbor.kobe-u.ac.jp

学籍番号 下3桁	GSP相談教員 メールアドレス
801-821	秋元 忍 akimoto@kobe-u.ac.jp

8 2 2 - 8 4 2	村山留美子 murayama@person.kobe-u.ac.jp
8 4 3 - 8 6 3	田畑暁生 akehyon@kobe-u.ac.jp
8 6 4 - 8 8 4	片桐恵子 katagiri_k@people.kobe-u.ac.jp
8 8 5 - 9 0 5	關 典子 n-seki@pegasus.kobe-u.ac.jp

8. 教務事項の説明

学部ガイダンスの教務情報の資料、『授業開始日及び遠隔授業の実施について』、『令和2(2020)年度授業及び教務関係予定表(国際人間科学部)』、『1年生前期の履修登録ガイド』、『教科書販売について【オンライン注文受付】』、『学生便覧』、『学生便覧2020(令和2年度)の追加及び修正について』、『令和2年度時間割表(各学科時間割表及び全学共通授業科目時間割表)』をよく読み、不明な点等あればまとめておいてください。

5月1日(金)のリアルタイム学科ガイダンスで簡単に説明し、5月8日(金)の初年次セミナーで詳しく説明し、さらに履修登録手続き及び時間割作成のシミュレーションをしてみます。

本学科を卒業するためには、4年間在学し、124単位以上修得する必要があります。また、3年次終了までに、卒業研究資格判定基準の79単位以上修得を満たしていなければ、卒業研究に入れません。

また履修登録上限(CAP)が設けられており、年間46単位しか履修登録できません。

履修登録期間は、通常は毎学期始め2週間ですが、今学期は、4月20日～5月20日と、開始が2週間早められています。

第一クォーター(①Q)の科目だけではなく、第二クォーターの科目もこの期間に履修登録しなければなりません。この期間を過ぎると履修登録できませんので、くれぐれもご注意ください。

9. 学生事項の説明

『令和2年度版 学生生活案内』、『令和2年度 学生便覧』の「V 学生関係(pp.279-282)」をよく読み、不明な点等あればまとめておいてください。

5月1日(金)の学科ガイダンス、5月15日(金)の初年次セミナーにおいて、『学生生活案内』の記載事項の中でも特に注意を払って欲しい点と、新型コロナウイルス感染症への対応について説明します。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、一時的にサービス等が中止・変更されている場合もあります。

これらについてはホームページ上で随時案内をしますので、必ず確認するようにしてください。

10. GSP 関係の説明

学部ガイダンスの GSP 関係の資料をよく読んでおいてください。5月1日（金）のリアルタイム学科ガイダンス、『GSP 履修ガイド』、及び5月22日（金）の初年次セミナー第3回リアルタイム授業：GSP 関連事項、さらにグローバルイシュー演習に参加し、グローバルイシューについての関心を深めていってください。

11.ESD コースの説明

ぜひ、ESD コースを履修してください。主専攻とともに履修できるサブコースです。全学の教員の協力によって運営されていますが、中心は本学部であり、本学科です。（ヒューマン・コミュニティ創成研究センターが事務局となっています）

SDGs（持続可能な開発目標）は、かなり巷で周知されてきました。ESD（持続可能な開発のための教育）は、SDGs にあらゆる人が主体的に取り組むようになるための支援実践です。このサブコースの科目を履修することで、SDGs 支援者になりましょう。コース終了後、神戸大学より「ESD プラクティショナー」の称号が付与されます。

まずは、第2Qの「ESD 基礎」か「ESD ボランティア論」にチャレンジしてください。履修必要な科目は、学生便覧の181頁をみてください。また、国際教養教育院のHP上に、別途、ガイダンスが貼付されています。参考にして下さい。

12.資格について（社会教育主事任用資格、社会教育士、公認心理師）

- 1. 社会教育主事任用資格・社会教育士

これまでは、行政専門職として任用される社会教育主事の資格でしたが、2020年度から一般に広く通用する「社会教育士」の称号を付与されることになりました。この資格を取得すると、履歴書・名刺などに「社会教育士」と記載できます。

社会教育士は、「NPOや企業等の多様な主体と連携・協働して、社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割」が期待されています。

この資格を取得するために、学生便覧の271頁の科目を履修してください。

- 2. 公認心理師

公認心理師は、平成27年9月に成立した公認心理師法に規定された国家資格であり、医療・保健、教育、産業・労働、司法・犯罪、福祉の分野において、専門的知識及び技術を持って、心理に関する支援を要する者の心理状態の観察と分析、相談対応と助言・指導等の援助、関係者への相談対応と助言・指

導等の援助，ならびに，心の健康に関する知識の普及をおこなう専門職です。

公認心理師の受験資格は、主に、4年制大学において定められた科目を履修の上卒業し、大学院において定められた科目を履修の上その課程を修了した者、ならびに、4年制大学において定められた科目を履修の上卒業し、規則により定められた施設において定められた期間の実務経験を経た者に与えられるとされています。なお、学部において修めるべき科目については、学生便覧の「公認心理師に関する科目」で確認してください。

また、心の探究プログラムに所属すれば、公認心理師資格の取得に必要な授業単位の取得が可能ですが、それ以外のプログラムでも、**5名までは心の探究プログラムのみが履修できる制限科目を履修することができ、当該プログラムの心理を専門とする教員の下で卒業研究をすることで、公認心理師になるために必要な学部における単位を取得することができます。**

13.今後のスケジュール

発達コミュニティ学科では、以下の通り、ライブ配信のリアルタイム学科ガイダンスを行います。

(1)4月28日(火)10時～BEEF、うりぼーネット及びweb会議システム
(ZOOM、WEBEX等)接続確認及びライブ配信リアルタイム授業のリハーサル1回目

学科共通の発達コミュニティ概論1のBEEFに24日に接続確認及びリハーサルに参加するURLをあげます。また、皆さんの学番メールにも同様のURLを送付します。そのURLをクリックし、パスワードを入力してZOOMミーティングに参加してください。パスワードは入力しなくても参加できる場合もあります。

ただし、4月28日(火)は、9時から17時までBEEFのメンテナンスで、閲覧できません。必ずそれまでにBEEFにアクセスし、URLをコピーし保存しておくか、学番メールをご覧ください。困ったときは学科長にメールをください。

ハウリングなどを避けるために、イヤフォンかヘッドフォンを使用してください。

ZOOMに参加できず、パソコンあるいはスマホの前で困ってしまった場合は、氏名と話せる電話番号を記入し、学科長吉田までメールをください。

ZOOM参加が技術的にできない場合は、下記のサイトを参照してください。解決できない場合は「困ったときは」にある「ヘルプデスク」に連絡してください。

https://lecturehub.kobe-u.ac.jp/for_students/

(2)4月30日(木)10時～BEEF、うりぼーネット及びweb会議システム

(ZOOM、WEBEX 等) 接続確認及びライブ配信リアルタイム授業のリハーサル 2 回目

4月28日に ZOOM ミーティングへの参加がうまくいかなかった学生のため、また参加出来た学生にとっても、複数回の練習として、2 回目の接続確認を及びライブ配信リアルタイム授業のリハーサルを行います。4月28日と同様に、4月30日分の ZOOM ミーティングの URL をクリックし、必要ならパスワードを入力して、参加してください。どちらも参加できない場合は、氏名と電話番号を記入し、学科長吉田までメールをください。

この日は WEBEX への接続確認もしますので、WEBEX 用の URL も確認しておいてください。ZOOM での作業中に WEBEX への参加を指示します。

(3)5月1日(金) 10時~ライブ配信リアルタイム学科ガイダンス(遠隔)

学番メールに送信し、かつ BEEF にあげられた学科ガイダンスの URL をクリックして、必要ならパスワードを入力して、参加してください。

接続がうまくいかなかったり、他に問題が生じたり、不安なことがある場合は、学科長吉田まで(アドレス：kyoshida@kobe-u.ac.jp)メールでご連絡ください。それ以外でも何か質問があれば、連絡ください。